



アクセシビリティ推進委員会

年報

2018

障がい学生支援の実施状況について

札幌学院大学

巻頭言

この年報は、アクセシビリティ推進委員会の活動を本学構成員のみなさまにお知らせする目的で今年度はじめて発行するものです。ご承知のように、アクセシビリティ推進委員会は、障がいのある学生が他の学生と同じように大学生活を送れるよう様々な支援を行っています。おそらく、授業・学内行事・通学時など様々な場面で実際の支援活動を目にされていることでしょう。それらの支援は「合理的配慮」とよばれており、この合理的配慮によって障がい学生の大学生活が保障されることとなります。アクセシビリティ推進委員会はこのような使命を担って活動をしているわけですが、この年報を通じて特にみなさまに知っていただきたいことは主に二つのことがあります。

一つは、アクセシビリティ推進委員会の活動は学生との協働がきわめて重要であるということです。本学の障がい学生支援を長く支えてきた学生の位置づけは、2017年度に「アクセシビリティ・学生スタッフ」として任命する仕組みを導入し、アクセシビリティ推進委員会の一員として公的に位置づけをしました。年報では、そうした学生の活動状況についても知っていただくことができると考えています。

二つめは、私たちの活動を進めていくためには、実際の支援活動の場面にはあられない取り組みも不可欠であるということです。教職員・学生ともに、合理的配慮を提供していくためには、各種の講習や研修あるいは他大学や関係機関との連携など、自ら研鑽し協働体制をつくる必要があります。これらはあまり見えない部分ですが、私たちの活動にはとても重要あり、年報を通じてその一端を紹介できればと考えます。

アクセシビリティ推進委員会の活動は、本学の理念である「自律」「人権」「共生」「協働」を具体化する取り組みとして、まさに自主的に、一人ひとりの学ぶ権利を保障するために、みんなで協働し、障がいのあるなしにかかわらず誰もが共に・等しく・快適に学べる環境づくりをめざそうとするものです。それをさらに発展させていくために、私たちの活動をみなさまに知っていただくとともに、今後とも努力を重ねていきたいと考えております。

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川 敏道

目次

- I アクセシビリティ委員会の概要…………… P 1
 - 1. アクセシビリティ推進委員
 - 2. アクセシビリティ・学生スタッフ
 - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況…………… P 2
 - 1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・UDトーク）
 - (1)通常の授業における情報保障の状況
 - (2)通常の授業以外における情報保障の状況
 - 2. ポイントテイク
 - 3. 通学・移動支援
 - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み …………… P 3
 - 1. 手話勉強会・手話サロン
 - 2. 雑談会
 - 3. 就職支援
 - 4. 学生面談の実施状況
 - 5. 支援者募集と説明会の実施状況
 - 6. 冬道通学介助支援 車椅子キャスタースキーの寄贈
- IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況…………… P 5
 - 1. 第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム・聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト
 - 2. 講師派遣・受け入れ
 - 3. 研究発表・研究会等参加
- V アクセシビリティ推進委員の活動状況…………… P 7
 - 1. 関係機関の委員委嘱
 - ・JASSO：独立行政法人日本学生支援機構
 - ・日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
 - 2. 北海道障害学生支援ネットワークの開催と参加
 - 3. 研修会・会議等の参加
 - 4. 理解・啓発および広報活動

Ⅱ アクセシビリティ推進委員会の概要

1. アクセシビリティ推進委員

委員長：松川 敏道（人文学部人間科学科准教授）藤野 友紀（人文学部人間科学科准教授）

二通 諭（人文学部人間科学科教授）齊藤 美香（心理学部臨床心理学科准教授）

皆川 雅章（副学長・法学部法律学科教授）廣嶋 進（教育支援課長）中川 道雄（学生支援課長）

2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

	経営学科	会計ファイ ナンス学科	こども発達 学科	人間科学 科	英語英米 文学科	臨床心理 学科	法律学科	経済学科	計
1年生	0	1	2	5	1	8	0	0	17
2年生	1	0	8	4	2	7	2	1	24
3年生	0	0	5	10	4	7	3	1	30
4年生	0	0	3	9	1	4	2	1	20
計	1	1	18	28	8	26	7	3	93

2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

(人)

	パソコンテイク	ノートテイク	ポイントテイク	通学介助	計
1年生	7	4	6	6	23
2年生	12	7	15	9	43
3年生	16	7	19	15	57
4年生	8	4	12	10	34
計	43	22	52	40	157

3. (参考資料) 障がい学生数

(人)

	聴覚	視覚	肢体不自 由	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
診断書のある学生	6	1	3	3	15	4	1	1	34
診断書のない学生	0	0	0	0	15	4	0	10	29
計	6	1	3	3	30	8	1	11	63

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数(科目等履修生含む)。2019年3月1日現在。

I 合理的配慮の実施状況

1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・UDトーク）

(1) 通常の授業における情報保障

(人)

前 期	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
情報保障を利用した学生数(人)	2	1	2	1	6
情報保障を行った授業数	25	7	20	2	54
	ノートテイク	2	0	0	2
	パソコンテイク	23	7	20	52

後 期	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
情報保障を利用した学生数(人)	2	2	2	1	7
情報保障を行った授業数	25	9	18	2	54
	ノートテイク	2	0	0	2
	パソコンテイク	23	7	18	50
	UDトーク	0	2	0	2

(2) 通常の授業における情報保障

- ・入学式、学位記授与式（パソコンテイク）
- ・各種ガイダンス（新学期・奨学金・諸資格・キャリアガイダンス）（パソコンテイク）
- ・実習報告会（パソコンテイク）
- ・学外見学「博物館施設見学（7月・小樽）」（ノートテイク・UDトーク）
- ・学外見学「ゼミ（少年院）（11月・千歳）」（パソコンテイク・UDトーク）
- ・学外見学「博物館資料論（北海道埋蔵文化財センター）（12月・江別）」（パソコンテイク・UDトーク）
- ・オープンキャンパス（パソコンテイク）
- ・障がい学生のための進路セミナー（10月・本学）（パソコンテイク・手話通訳（外部依頼））



※情報保障の支援では、1時間1,000円の謝金が学生スタッフに支払われます

2. ポイントテイク

(人)

前 期	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
ポイントテイクを利用した学生数(人)	1	1	1	1	4
ポイントテイクを行った授業数【前期】	2	13	11	1	27
ポイントテイクを行った授業数【後期】	0	13	9	3	25

※ポイントテイクでは、1時間850円の謝金が学生スタッフに支払われます



3. 通学・移動支援

(人)

前 期	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	計
通学介助を利用した学生数(人)	1	1	1	1	4
週あたりの登下校回数【前期】	4	5	6	2	27
週あたりの登下校回数【後期】	4	5	6	2	25

※通学・移動支援では、1回300円の謝金が学生スタッフに支払われます。



4. 授業配慮の依頼状況

[前期33名] 聴覚障がい学生6名、肢体不自由学生4名、学習障がい学生23名

[後期23名] 聴覚障がい学生6名、肢体不自由学生4名、学習障がい学生13名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み



1. 手話勉強会・手話サロン

手話勉強会は前期：2018年4月17日から7月20日（13回）、後期：10月5日から12月21日（11回）毎週金曜日（※前期は火曜日または金曜日）19：00～20：30まで、コラボレーションセンターENTRANCEにて開催。今年度は全24回開催した。学外講師は2名（佐藤裕介氏、小川達巳氏）、参加学生数（延べ）24名。（北翔大学の学生6名参加）



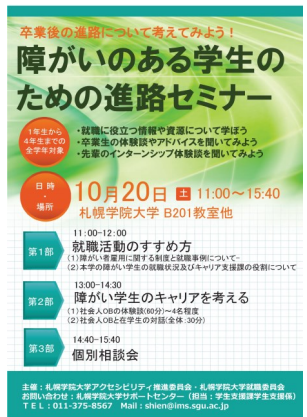
2. 雑談会

精神的な困難や不安を感じていたり、発達障害の疑いを感じていたりする学生同士の助け合いの場として、毎月1回のペースで開催。2018年度は61名（延べ人数）参加



3. 就職支援

- 1) 2018年10月20日／障がいのある学生のための進路セミナーの開催
- 2) 2019年1月16日／障がい学生のためのキャリアガイダンス
(キャリア支援課主催)
- 3) 石狩障がい者就業・生活支援センターのいけるとの業務提携・相談窓口開設の推進



4. 学生面談の実施状況

2018年度入学生 入学前面談 9名実施

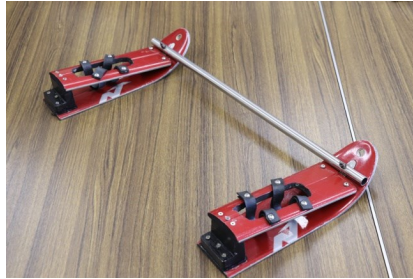
5. 支援者募集と説明会の実施状況

- (1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ
2018年3月29日（新2年生）、3月30日（新3年生）、4月4日（新入生）
アクセシビリティ推進委員、新入生のみ利用学生・支援学生も参加
- (2) 障がい学生支援者説明会
2018年4月12日、16日、18日、10月17日 12:30-13:00（昼休み）
- (3) ノート・パソコンテイク講習会（全6回）
[前期]2018年5月7日～6月15日 [後期]2018年10月5日～11月30日
- (4) ポイントテイク講習会
[前期]4月17日 [後期]11月14日、28日、12月5日、19日
- (5) 冬道通学介助講習会
[後期] 11月10日



6. 冬道通学介助支援 車いすキャストスキーの寄贈

植田高様のご好意で車いす学生が冬道での通学を安全かつスムーズに行えるようにと、車いすに装着する専用のスキーを寄贈していただきました。このスキーは、本学の車いす利用学生の車いすのサイズに合わせてオリジナルで作成していただいた物です。冬道を車いすで通学することは非常に難しく、通学介助を支援する学生・教職員も苦労しておりましたが、植田様からいただいたスキーのおかげで、スムーズに冬道での通学を行えるようになりました。植田様のご好意に対し、学長室にて感謝状授与式を行いました。



IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況



1. 第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

日時：2018年10月28日 会場：早稲田大学 主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）／国立大学法人 筑波技術大学

「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2018」

標記シンポジウムは全国的な組織である日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)によって開催され、このコンテストは、全国の大学で障がい学生支援の活動に主体的に取り組んでいる学生達が、日頃の活動状況をポスター形式で発表する場をつくり、会場の参加者の投票によって優秀な取り組みを表彰しようという趣旨で実施されています。今年度は15大学の参加がありました。本学からは、2018年の2月と9月に北見工大の学生を対象として実施したパソコンテイク講習会に関する発表を行いました。この講習会は、計画から実施までを全て本学のアクセシビリティ・学生スタッフが実施しています。発表のタイトルは「～テイクでつながる道東との絆～ 学生による他大学のテイカー育成支援」で、学生スタッフを代表して参加した人文学部臨床心理学科の杉澤君と法学部法律学科の高松君は、発表ポスターを前に、参加者からのさまざまな質問にしっかりと答えていました。この発表では、質問者に対する情報保障の質も問われます。今回は、聴覚がい者からの質問に的確に答えることができるように、音声認識による発話の文字化や、筆談ボードの準備をして発表の場に臨みました。その工夫が認められて、プレゼンテーション賞を受賞することができました。本学がこのコンテストに参加し始めてから、初めての受賞です。先輩学生達から受け継がれてきた地道な取り組みの成果であると言えます。



2. 講師派遣・受け入れ

- 2018年9月20日～21日／パソコンテイクー養成講習会／北見工業大学 学生3名受け入れ

講師：杉澤 榛高、澤田 望乃（臨床心理学科3年）、高松 良輔（法律学科3年）



3. 研究発表・研究会等参加

【研究発表】

- 2018年10月27～28日／第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム・聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト（東京・早稲田大学）プレゼンテーション賞受賞

／杉澤 榛高（臨床心理学科3年）、高松 良輔（法律学科3年）



【研修会・会議出席】

- 2018年8月24～27日／第38回全国ろう学生の集い（山梨）

／法律学科4年 林 真由香・こども発達学科2年佐藤佳明・小林未依（学生3名参加）

Vアクセシビリティ推進委員の活動状況

1.関係機関の委員委嘱

(1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生修学支援ネットワーク事業運営委員

松川敏道（任期：2018年4月1日～2019年3月31日）

(2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2018年4月1日～2019年3月31日）

2.北海道障害学生修学支援ネットワーク

2017年10月に本学にて第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが開催されたのをきっかけに、実行委員会メンバーとして半年間協力して準備を進めてきた7大学（北海道大学、北海道情報大学、北海学園大学、北星学園大学、北翔大学、酪農学園大学、本学）の障害学生支援担当部署教職員が「北海道障害学生修学支援ネットワーク」を立ち上げました。会場校を持ち回り、年に2回のペースで情報交換会を実施しています。加盟校も少しずつ増えてきています。

2019年2月26日開催の第3回情報交換会は本学が会場校を担当しました。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の協力を得て、午前はワークショップ「自分を知ろう！伝えよう！自分らしい人生を歩むために」を企画しました。梶山玉香講師（同志社大学）による講演「障害者差別解消法を知ろう！」の後、甲斐更紗講師（群馬大学）による学生プログラム、梶山講師による教職員プログラムを組み、『聴覚障害学生サポートブック』を活用したグループワークや議論をおこないました。午後の情報交換会ではワークショップに関する質疑応答の後、各大学の近況報告と障害学生支援体制に関する事例紹介をしました。今回のトピックは「映像資料への字幕挿入」「障害学生に対する災害時の支援」「コーディネータ採用の過程と効果」でした。最後に本学の齊藤美香教員が「本学の発達障害学生への対応と支援」と題して話題提供をおこない、大学間で連携可能な課題について意見交換しました。





3.研修会・会議等の参加

【来訪・情報交換】

- 2018年8月28日／北海道障害学生修学支援ネットワーク第2回情報交換会（江別・北海道情報大学）
- 2019年2月26日／北海道障害学生修学支援ネットワーク第3回情報交換会（江別・本学）
- 2018年12月21日／東洋大学 職員2名

【研修会・会議出席】

- 2018年6月28～30日／全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会（東京）
／皆川 雅章（教員）・松川 敏道（教員）・斉藤 美香（教員）・尾崎 貴司（職員）
- 2018年7月5日／平成30年度第1回大学等の相互支援をめざす研究協議会（仙台）
／皆川 雅章（教員）
- 2018年7月21日／PEPNet-Japan第7回正会員大学・情報交換会・第35回運営委員会（東京）
／藤野 友紀（教員）
- 2018年9月16日／PEPNet-Japan第8回正会員大学・機関情報交換会・第36回運営委員会（東京）
／藤野 友紀（教員）、青木 美保（職員）
- 2018年10月5日／発達障がい傾向のある大学生・専門学校生就労支援ワークショップ（札幌）
／尾崎 貴司（職員）
- 2018年10月27～28日／第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（東京・早稲田大学）
／藤野 友紀（教員）・皆川 雅章（教員）・松川 敏道（教員）
- 2018年11月9日／平成30年度全国障害学生支援セミナー「専門テーマ別セミナー」（広島）
／斉藤 美香（教員）
- 2019年2月9日／PEPNet-Japan第9回正会員大学・情報交換会・第37回運営委員会（愛知）
／藤野 友紀（教員）
- 2019年2月22日／京都大学バリアフリーシンポジウム（京都）／斉藤 美香（教員）
- 2019年3月22日／平成30年度日本学生支援機構障害学生委員会（東京）／松川 敏道（教員）



理解・啓発および広報活動

『障がい学生支援ガイド』（2019年3月20日発行）

札幌学院大学は、「障がい学生」の「学び」の機会を確保し、一人ひとりの学びを導くことを目指し、障がいのある学生が安心して学ぶことができるよう、支援に努めています。

札幌学院大学の学生への入学及び支援に関する基本方針は下記をご覧ください。
<http://www.scol.ac.jp/department/education/pep.html>

困っていませんか？

授業中の参加が難しい、授業内容が理解できない、授業内容が理解できない、移動に介助が必要、高校から支援を受けていた

相談窓口

・サポートセンター
 (相談の場として対応)

サポートセンターでの相談

身体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、発達障がい、精神障がい、内臓障がい、性別違和など、多様な支援ニーズに対応しています。一時的な障がい、病気による医学上の治療や、まだ診断を受けていない、発達障がいや精神障がいの支援から医学上の治療を受ける方も、お気軽にご相談ください。

本人に関わる関係者、教職員のご相談も受け付けています。

定学費のみならず、本学を支援している関係者、保護者、学校関係者からの相談も受け付けています。

札幌学院大学 サポートセンター
 札幌学院大学 札幌校舎2階
 〒057-8501 札幌市東区南一条1-1-1

障がい学生支援ガイド

札幌学院大学
 札幌校舎2階
 〒057-8501 札幌市東区南一条1-1-1
 専攻ごとに担当が異なります。

札幌学院大学
 〒057-8501 札幌市東区南一条1-1-1
<http://www.scol.ac.jp>

障がい学生支援体制

相談から支援への流れ

- 1 入学前からの相談
- 2 アクセシビリティ推進委員会と関係部署との協議
- 3 合理的配慮の決定と通知
- 4 配慮願いの確認のための面接
- 5 合理的配慮の実施
- 6 学業上の進捗確認と相談

支援内容の例

視覚障がい	資料の拡大・縮小・拡大・代読・代読
聴覚障がい	ノートパソコンの音声認識、映像資料の字幕
肢体不自由	自席の調整、ボイスタイプライター、教室移動介助、電卓書字介助
発達障がい	授業準備の簡便化、セブサポート（情報系）
精神障がい	授業予定、休講調整
内臓障がい	授業予定、休講調整
全てに障がい	定期試験記名（代理・時間延長）、机間交換

合理的配慮

障がいの種類・程度・程度、授業内容や科目によって合理的配慮が異なる場合があります。そのほか、合理的配慮の実施には、本人の同意や本人の希望による場合があります。また、本人の希望による場合、合理的配慮の実施が困難な場合があります。合理的配慮の実施は、本人の希望による場合、合理的配慮の実施が困難な場合があります。

定期試験時の配慮について

障がいの種類や程度に応じて、定期試験時に、時間延長、机間交換、試験時間延長、試験時間延長など、本人の希望による場合、合理的配慮の実施が困難な場合があります。

入学における配慮について

視覚、聴覚障がい、身体障がい、発達障がい、精神障がい、内臓障がい、性別違和など、多様な支援ニーズに対応しています。一時的な障がい、病気による医学上の治療や、まだ診断を受けていない、発達障がいや精神障がいの支援から医学上の治療を受ける方も、お気軽にご相談ください。

本人に関わる関係者、教職員のご相談も受け付けています。

定学費のみならず、本学を支援している関係者、保護者、学校関係者からの相談も受け付けています。

札幌学院大学 サポートセンター
 札幌学院大学 札幌校舎2階
 〒057-8501 札幌市東区南一条1-1-1

支援学生について

本学の障がい学生支援の中心は、学生支援課です。学生支援課は、障がいの種類や程度に応じて、合理的配慮の実施を行います。また、本人の希望による場合、合理的配慮の実施が困難な場合があります。

お問い合わせ

TEL 011-375-6871(直通)

FAX 011-389-8190

お問い合わせ

TEL 011-375-6871(直通)

FAX 011-389-8190

お問い合わせ

TEL 011-375-6871(直通)

FAX 011-389-8190



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

住所：〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

電話番号：011-375-8567（直通）

ファックス番号：011-386-8190

（担当事務局：学生支援課学生支援係）